

岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第36冊

鹿田遺跡 14

— 第17次調査 —

(岡山大学総合研究棟 (医学系) 新営に伴う発掘調査)

2020年

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

本発掘調査報告書は、岡山大学鹿田地区に新営された医学系の総合研究棟建設に伴って、本センターが2006年度に実施した鹿田遺跡第17次発掘調査の成果をまとめたものです。同遺跡では、現在までに28回の発掘調査を実施していますが、発掘調査報告書としては14冊目となります。

本調査地点は、第7次調査地点の西隣に接する場所にあたっています。また、西側では第6次調査、北側では第24次調査、南側では第26次調査が実施されており、第7次調査地点と合わせると、それらの調査地点の中心域付近に位置することとなります。いずれも報告書は刊行済みですが、こうした位置関係を有する本調査地点の成果を通じて、各調査地点の成果をつなぎ合わせることが可能となった点で、本報告は一つの大きな役目を果たすこととなりました。その結果、本学敷地に広がる鹿田遺跡の西端域に点在していた各調査地点の成果は、点から面への広がりへと転じることとなり、同域にひろがる各時期の空間利用状況やその変化を、ある程度具体性をもって描き出す手がかりとなりました。これは、まさに同一遺跡内における断続的な調査の継続が生み出す醍醐味といえるでしょう。

古墳時代初頭では、本調査地点で検出された遺構の種類や配置について、第7次調査の成果を再検討して考察することで、集落内の西端域における集落構造の変化を、住居形態の違いや区画溝の出現などから指摘することとなりました。一方、中世では、同域における屋敷地の規模や配置、その内部の空間利用状況、そして屋敷地区割りの原理などに関する成果が得られました。こうした資料は、鹿田遺跡における既往研究にとって重要であるだけでなく、他の集落遺跡の研究にも影響を与える資料となるでしょう。

新たな発見もありました。特に古代の遺構は、本遺跡内における調査では類を見ない遺構となりました。その性格については今後の検討が求められますが、新しい発見と課題、そして、それについての探求心を持つ続けることで、鹿田遺跡の全貌が解明されていくことを期待したいと思います。

最後となりましたが、発掘調査の実施そして発掘調査報告書の刊行にあたっては、本学内外の関係機関・各位から様々な形でご協力をいただきました。この場をかりて皆様に改めて感謝申し上げます。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長 渡 邊 和 良
副センター長 山 本 悦 世

目 次

第1章 歴史的・地理的環境	1
第1節 遺跡の位置と周辺遺跡	1
第2節 鹿田遺跡の調査概要	3
1. 構内座標の設定	3
2. 遺跡の概要	3
第2章 調査の経緯と概要	9
第1節 調査の経緯と経過	9
1. 調査に至る経緯	9
2. 調査体制	9
3. 調査経過	10
第2節 調査の概要	11
第3章 調査の記録	13
第1節 調査地点と層序	13
1. 調査地点	13
2. 層序	14
第2節 古墳時代初頭の遺構・遺物	19
a. 竪穴住居	21
b. 炉跡・焼土集中域	24
c. 土坑	33
d. 溝	35
第3節 古代の遺構・遺物	39
a. 建物状遺構	39
b. 溝	46
第4節 中世前半の遺構・遺物	46
a. 掘立柱建物とピット	48
b. 井戸	50
c. 土坑	56
d. 溝	58
第5節 中世後半～近世・近代の遺構・遺物	76
(1) 中世後半～近世初頭	76
a. 井戸	76
b. 溝	77
(2) 近世・近代	80
a. 土坑	81
b. 溝	93
c. 畦畔	94
d. 水口	95
第6節 包含層ほかの出土遺物	97

第4章 第17次調査地点における調査成果	山本悦世	99
----------------------------	------	----

第5章 自然科学的分析

1. 鹿田遺跡出土管玉の原石、遺物成分群同定	藁科哲男	108
2. 鹿田遺跡第17次調査出土種子と土器圧痕の種子同定	岩崎志保・沖陽子	115
3. 鹿田遺跡第17次調査出土土師器杯内の漆膜構造調査	(株)吉田生物研究所	122
4. 鹿田遺跡第17次調査出土漆碗の分析	(株)吉田生物研究所	123

写真図版

挿 図 目 次

第1章～第4章	図29 古代遺構全体図	39	
図1 周辺遺跡分布図	2	図30 建物状遺構1・溝4	41
図2 発掘調査地点と構内座標	4	図31 建物状遺構1・溝4断面	42
図3 調査開始状況	10	図32 建物状遺構1内ピットの	
図4 調査風景	10	直径と底面高分布	43
図5 遺構全体図	11	図33 建物状遺構1出土遺物および関連遺物	45
図6 本調査地点と周辺の既調査地点	13	図34 溝4出土遺物	46
図7 土層断面図の位置	14	図35 中世前半遺構全体図	47
図8 調査区基本土層図	16	図36 掘立柱建物1・2	48
図9 基本土層堆積状況	17	図37 ピット11・12	49
図10 古墳時代初頭の遺構全体図	20	図38 ピット出土遺物	50
図11 竪穴住居1・2	22	図39 井戸1・遺物出土状況	51
図12 竪穴住居3と		図40 井戸1出土遺物1	52
第7次調査竪穴住居1・出土遺物	23	図41 井戸1出土遺物2 - 木製品 -	53
図13 炉跡1および周辺状況	25	図42 井戸2・遺物出土状況	54
図14 炉跡2・出土遺物	26	図43 井戸2出土遺物	55
図15 炉跡3	28	図44 土坑3	56
図16 炉跡3断面	29	図45 土坑3断面・出土遺物	57
図17 炉跡3出土遺物	31	図46 溝5～7	58
図18 焼土集中域1・出土遺物	32	図47 溝8・9断面	59
図19 焼土集中域2・出土遺物	33	図48 溝8出土遺物1	60
図20 土坑1	33	図49 溝8出土遺物2 - 礫 -	61
図21 土坑1出土遺物	34	図50 溝10断面	62
図22 土坑2・出土遺物	34	図51 溝10出土遺物	63
図23 溝1断面	36	図52 溝11断面	63
図24 溝1遺物出土状況	36	図53 溝12	65
図25 溝1出土遺物1	37	図54 溝12出土遺物	66
図26 溝1出土遺物2	38	図55 溝13・14	68
図27 溝2	38	図56 溝13出土遺物	69
図28 溝3断面	39	図57 溝14出土遺物	69

図58 溝15～17断面	71	図83 鹿田遺跡西端付近における 中世前半の遺構配置	104
図59 溝15出土遺物	72		
図60 溝16出土遺物	73		
図61 溝17出土遺物	75		
図62 中世後半～近世初頭の遺構全体図	76		
図63 井戸3	77		
図64 溝18断面	77		
図65 溝19断面	78		
図66 溝19出土遺物	79		
図67 近世・近代の遺構全体図	80		
図68 土坑4～9	83		
図69 土坑4～10出土遺物	85		
図70 土坑10～13	86		
図71 土坑14～19	89		
図72 土坑17出土遺物－木器－	91		
図73 土坑14～19出土遺物	92		
図74 溝20断面・出土遺物	93		
図75 〈4層〉検出畦畔断面	94		
図76 畦畔1～4断面	95		
図77 水口1・2断面	96		
図78 水口2出土遺物	96		
図79 包含層ほか出土遺物1	97		
図80 包含層ほか出土遺物2－土製品・石製品－	98		
図81 第7次調査・第17次調査地点における 古墳時代初頭の遺構配置	100		
図82 第7次調査掘立柱建物1・溝4の断面	101		
		第5章	
		1	
		図1 浦項碧玉、浦項緑色凝灰岩、 花仙山碧玉の蛍光X線スペクトル	109
		図2 古墳（続縄文）時代の碧玉製管玉の原材料使用 分布圏および碧玉・碧玉様岩の原産地	109
		図3 鹿田遺跡出土緑色凝灰岩製管玉（129901）の 蛍光X線スペクトル	111
		図4 碧玉原石のESRスペクトル （花仙山、玉谷、猿八、土岐）	112
		図5 碧玉原石の信号（Ⅲ）のESRスペクトル	113
		図6 鹿田遺跡出土管玉および鬼塚C石材群の ESR信号（Ⅲ）のスペクトル	114
		2	
		写真1 遺構出土種子1～54	118
		写真2 遺構出土種子55～105	119
		写真3 土器圧痕1～7	120
		写真4 土器圧痕8～14	121
		3	
		図1 塗膜断面写真	122
		4	
		図1 断面写真	123
		図2 塗膜断面写真	125

表 目 次

第1章～第2章

表1 調査区断面における各基本層位レベル一覧	17
表2 建物状遺構1内ピット一覧	43
表3 I～V群のピット間距離と列方向	44
表4 掘立柱建物構成柱穴一覧	49
表5 掘立柱建物規模と柱間距離一覧	49
表6 近世・近代土坑の類型化一覧	81
表7 遺構一覧	106
表8 出土木製品類と自然木の樹種一覧	107

第5章

1

表1 各碧玉の原産地における原石群の元素比の 平均値と標準偏差値	110
-------------------------------------	-----

表2 鹿田遺跡出土管玉の

非破壊分析による化学組成濃度	111
----------------	-----

表3 鹿田遺跡出土管玉の元素比分析結果	112
---------------------	-----

表4 鹿田遺跡出土管玉の石材産地同定	112
--------------------	-----

2

表1 遺構出土種子一覧	116
-------------	-----

表2 土器圧痕の種子同定結果一覧	117
------------------	-----

3

表1 調査資料	122
---------	-----

表2 塗膜構造表	122
----------	-----

4

表1 調査資料	124
---------	-----

表2 塗膜構造表	124
----------	-----

図版目次

- | | | | |
|------|---------------------|------|-----------------------|
| 図版 1 | 古墳時代初頭遺構全景 | 図版19 | 溝10 |
| 図版 2 | 中世遺構全景 | 図版20 | 溝11、溝12(1) |
| 図版 3 | 近世・近代遺構全景 | 図版21 | 溝12(2) |
| 図版 4 | 竪穴住居 1～3 | 図版22 | 溝13～17 |
| 図版 5 | 炉跡 1、焼土集中域 1、土坑 1・2 | 図版23 | 溝15～18土層断面 |
| 図版 6 | 炉跡 2 | 図版24 | 土坑 4・5・8・9 |
| 図版 7 | 炉跡 3(1) | 図版25 | 土坑 6・7・10～12 |
| 図版 8 | 炉跡 3(2)、溝 1(1) | 図版26 | 土坑14～16 |
| 図版 9 | 溝 1(2)、溝 2 | 図版27 | 土坑17～19 |
| 図版10 | 建物状遺構 1、溝 4 | 図版28 | 水口 |
| 図版11 | 掘立柱建物 1・2と周辺遺構 | 図版29 | 古墳時代初頭 出土遺物 |
| 図版12 | 井戸 1 | 図版30 | 建物状遺構 1、溝 4、井戸 1 出土遺物 |
| 図版13 | 井戸 1 遺物出土状況 | 図版31 | 井戸 2、土坑 3 出土遺物 |
| 図版14 | 井戸 2 | 図版32 | 溝 8・10・12 出土遺物 |
| 図版15 | 井戸 3 | 図版33 | 溝13～17 出土遺物 |
| 図版16 | 土坑 3 | 図版34 | 近世・近代遺構 出土遺物 |
| 図版17 | 溝 8、溝 9 | 図版35 | 石製品・土製品ほか |
| 図版18 | 溝 8 土層断面 | 図版36 | 木製品 |

例言

1. 本書は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学総合研究棟（医学系）新営に伴って実施した鹿田遺跡第17次調査の発掘調査報告書である。調査地点は、岡山市北区鹿田町2丁目5番1号に所在する。発掘調査期間は2006（平成18）年7月～同年11月で調査面積は642㎡である。
2. 発掘調査および報告書作成は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会の指導のもとに行われた。委員・幹事諸氏に御礼申し上げる。
3. 本書作成に当たっては、以下の諸氏に教示・協力いただいた。また、沖陽子・薬科哲夫氏からは玉稿を賜った。皆様に記して感謝申し上げます。
石材同定：鈴木茂之（岡山大学大学院自然科学研究科）、木材同定：能城修一（明治大学黒曜石研究センター）、国産陶磁器の同定：乗岡実（丸亀市教育委員会）
4. 発掘調査時の遺構実測・写真撮影は、調査体制にあげた調査研究員が実施した。
5. 報告書作成に当たっての主な担当は以下のとおりである。
【遺物】＜実測・浄書・観察表＞有賀紅美　＜実測＞西本尚美　＜浄書＞小野素子　＜写真撮影＞有賀
【遺構】＜浄書＞野崎貴博・岩崎志保・山口雄治・有賀・小野
なお、遺物の全体整理および遺構下図作成は山本悦世が行った。
6. 本書の執筆分担は、第1～4章を山本悦世が担当し、第5章は各項ごとに執筆者名を目次に示した。
7. 本書の編集は山本悦世が担当した。
8. 発掘調査の概要は『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2006』に一部報告しているが、本書をもって正式なものとする。
9. 本書で使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25000の地形図「岡山北部」と「岡山南部」(平成6年度発行)を合成して使用したものである。
10. 本書に掲載した記録・出土遺物は全て本センターで保管している。

凡例

1. 本書でも用いる高度値は海拔標高であり、方位は国土座標V座標系（世界測地系）の座標北である。
方位に関しては、本書では調査時に使用した座標も併記する。
2. 遺物番号は遺構別に番号を付し、土製品はT、石器はS、木器はWを付して通し番号とする。
3. 遺物に関するデータは観察表にまとめている。観察表の表記基準は以下の通りである。
①胎土は、微砂：砂粒径0.5mm以下、細砂：0.5～1mm、細礫：2mm以上
②法量値は、数値の差が3mm以下の場合は平均値を示すが、同数値以上の差がある場合は「～」を付してその数値幅を示した。
残存状況については、計測部の残存度を示し、その割合が1/6以下の場合は「-」を記した。ただし、1/6以下でも数値を記す場合には（ ）を付した。なお、器高値については、全て残存状況1/1の値を示す。
4. 土層注記では鉄分をFe、マンガンをMnと表記した。
5. 巻末図版の遺物番号は、本文中の遺物番号に一致する。

